このリポートのポイント

①秋田杉は関東ではブランド品
②機械化されている製材所
③日本は森林の割合の高い森の島
④おすすめします、地元の杉

丸太を四角に製材するにはどう切り出せば一番効率が良くなるかは、経験が必要なのでしょう。

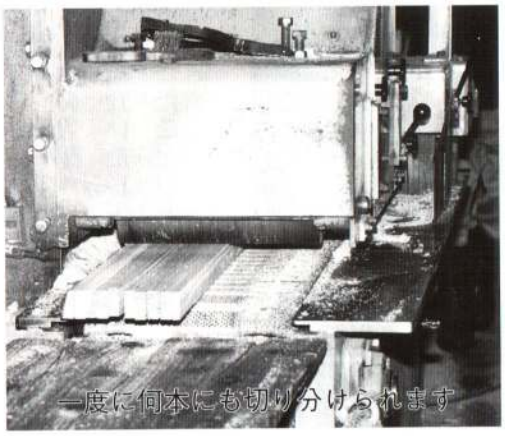
製材された木材は、束ねられてそのまま出荷されるものと乾燥させてから出荷されるものとがあります。

木材の乾燥の仕方には大きく二つのやり方があります。一つは天然乾燥です。これは用途に合わせて切った丸太を雨がかからないようにして積み上げてゆっくりと時間をかけて乾燥させるものです。柱だと四カ月ぐらいかかります。もう一つの方法は人工乾燥です。乾燥機で乾燥させるもので、比較的短時間で出来上がります。

乾燥材になると歩留まり（原料の使用量に対する製造品の量の比率）が悪くなります。というのも、木を乾燥させるとねじれたり、曲ったりするため、いくぶん大きめにカットしておいて、乾燥後に再度所定の大きさに切るからです。しかも人工乾燥の場合は急激に乾燥させるため、曲ったり割れたりする割合も多くなり、天然乾燥に比べて歩留まりが悪くなります。こちらの製材所では天然乾燥だけを行っていました。乾燥材を作るには時間と経費がかかります。丸太として買ってから製品として販売できるまでは、四カ月かかるときもあります。このため、その間の金利負担も相当なものになりますが、その分単価が上乗せできるかというとそうでもなく、大変なのだそうです。

家を建てる場合は是非とも乾燥材を使いたいところですが、お話を伺ってそれは大変な手間やお金がかかることが分かりました。

四面を切断された木材


一度に何本にも切り分けられます

「森の島」日本

ところで、私は木の伐採は冬に行うものとばかり思っていたのですが、実は一年中切られてます。一九九〇年の資料では、素材生産業者（山から木を伐採して製材所や市場に売る業者のこと）は大館市で七、比内町十九、田代町五となっています。これだけの業者が年がら年中大館近郊の山の木を伐採したら、あっという間に山には木が無くなってしまいそうです。ところが、全くそう見えないのは、山と森林がいかに多いかを物語っています。先の資料によれば、大館の面積の七〇％が森林で、日本全体では六七％が森林です。世界の森林に目を向けると、いかにも森林が多そうに感じるカナダは五四％、アメリカは三二％、中国は十四％で、いずれも日本より少ない割合です。日本は本当に森の島なのです。

関東へ向けて出荷される製材

地元の杉を使いませんか

最近、この地域でも家を建てる時には、外国産の木材が使われることが多い様です。秋田は日本でも有数の杉の産地です。その秋田杉は関東の方で消費され、地元では輸入された外材を使っている。なぜでしょうか。その一番の理由は外国産の方が単価が安いからでしょう。それにしても何か違和感を覚えます。出荷時にも環境にダメージを与えることを考えれば、これでいいはずはないように思います。

今回、杉の伐採現場と製材所を訪ねて、以前より杉を身近かに感じることができました。私は建築の設計をしていますが、もう少し地元の杉を活かした設計をするよう心掛けたいと思い始めています。

皆さんも家を建てる時には、どんな木材が使われるのかに感心を持って、地元のブランド品である秋田杉を使ってみてはいかがでしょうか。